

企業訪問 循環型最前線レポート

中部保全(株) エコプラザ



平成12年にISO14001認証取得

徹底した選別精度と自動化ラインで 資源循環の新たな躍動を

中部保全(株) エコプラザ

良質な循環資源の製造拠点に

循環型社会構築には、3R推進を中心とした資源循環業への本格的な取り組みが必要であり、その一つとして多機種の選別機を駆使し、ベルトコンベアーで自動化して効率良く、良品の再資源化を実現させた中部保全(株)の中間処理施設「エコプラザ」(愛知県額田郡幸田町坂崎字与荒子26)を訪ね、所長の近藤大樹さんにお話を伺いました。



エコプラザ 近藤所長

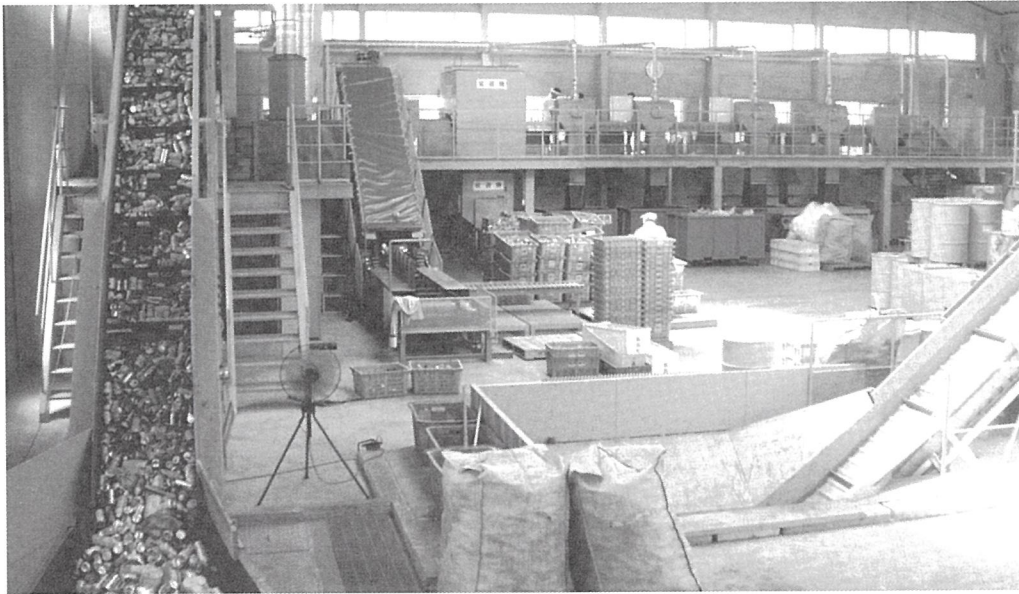
最終処分量の低減率を90~95%(実績値平均)実現

同プラザはJR岡崎駅から車で15分程走った額田郡幸田町にあり、周辺では比較的大きな建物で、工場内もきれいに整理、清掃され、騒音や臭いもなく、一般の工場とほとんど変わらない落ち着いた印象です。

中部保全(株)の中間処理施設として建てられたもので、敷地面積2,200坪のなかに、2つの再資源化プラント(第一工場、第二工場)があり、第一工場ではビンや缶類の選別と減容、乾電池の選別、トレイ・発泡スチロールの溶融、蛍光管の破碎、フロンの回収を行っています。第二工場ではペットボトルの減容、圧縮、その他のプラスチックの減容、圧縮を行っています。その他粗選別場や処理後の保管施設のストックヤード、研修等にも使われる管理棟があります。

全従業員90名のうち、このエコプラザでは50名の方が仕事をしています。





やすい状態に選別するなど徹底した選別精度で再資源化を図っています。

この施設では岡崎市、幸田町の一般廃棄物の他、機密書類の破碎及び産業廃棄物も、収集運搬から中間処理まで行っています。

工場の中はほとんど自動化され、手選別の一部を除いて、人はほとんどいません。こうした先進

3R推進の一翼を担って

この施設の最大のポイントは、いくつもの選別機と自動化によって効率の良い再資源化製造ラインができたことです。これによって大幅な減量化はもたらんこと、良質な循環資源が生まれたことです。

分別収集されたスチール缶は選別機で選別、圧縮され、ブロック化されます。ビンは色選別破碎ラインで色別に分類、資源化されます。アルミ缶はアルミ選別ラインでアルミのみを選別、圧縮しブロック化されます。トレイ・発泡スチロールは溶融機で溶かし、固形化されます。ペットボトルは破碎・選別ラインを経て圧縮、梱包されます。その他のプラスチックにおいても選別後、減容、圧縮し、梱包されます。不燃ごみについても選別後、破碎し、分別し

の設備を導入した背景にはリサイクルへの長年の経験と試行錯誤の結果によるところが多く、リサイクルの取り組みについて近藤所長は「飛躍的な低減化を可能にしたポイントは、第一が選別の精度を高めることで良質な再資源化を図ることができる点です。さらに選別の自動化プラントによって、人手による選別に比べ、スピーディに処理することができるようになったことです。一般廃棄物はその分別が細分化され、家庭における分別の手間も大変なものです。この現況からすると、再資源化率の向上と処理能力アップは処理業者に課せられた重要な責務だと思います」とはっきり言われました。

同プラザでは資源廃棄物として毎日5トンリサイクルし、資源循環に取り組んでいます。

